

平塚みどりヶ丘自主防災会  
災害対策本部マニュアル

2023年4月

平塚みどりヶ丘自主防災会

## 目 次

1. 目的.....	1
2. 地震発生時の災害対策本部の活動内容 .....	1
2.1. 地震発生直後の災害対策本部の組織と行動手順.....	1
2.1.1. 地震発生直後の災害対策本部の組織.....	1
2.1.2. 地震発生直後の災害対策本部における行動手順 .....	2
(1) 自助活動.....	2
(2) 防災活動の開始.....	2
(3) 災害対策本部設置前準備.....	3
(4) 参集メンバーの確認および対策本部設置 .....	4
(5) 対策本部体制構築.....	5
(6) 本部長・本部長補佐.....	6
(7) 受付係.....	7
(8) 通信係.....	9
(9) 情報整理係.....	9
(10) 防災部長・防災部長補佐 .....	11
(11) 広報チーム .....	14
(12) 緊急活動チーム .....	16
(13) 避難支援チーム .....	17
(14) 安否確認チーム .....	18
(15) 南公園一時避難場所係 .....	19
(16) 北公園支部係（北公園一時避難場所係） .....	20
2.2. 復旧期間の災害対策本部の組織と活動内容.....	22
2.2.1. 復旧期間の災害対策本部の組織.....	22
2.2.2. 復旧期間の災害対策本部における活動内容 .....	22
(1) 会議の開催.....	22
(2) 避難所外避難者の調査.....	22
(3) 被災状況の調査.....	23
(4) 避難所外避難者の必要物資の調査と配給 .....	23
(5) ごみの対応.....	24
(6) ボランティア .....	25
(7) 避難情報の収集・整理.....	26
(8) 防犯パトロール.....	26

3. トランシーバー使用方法.....	27
3.1. 通話操作および通話要領.....	27
3.2. 通信方法.....	28

#### 更新履歴

平成26年9月20日	H26年度版配布
平成27年4月18日	H27年度版配布
平成28年4月16日	H28年度改定版配布
平成29年4月15日	H29年度改定版配布
平成30年4月14日	H30年度改定版配布
2019年4月27日	2019年度改定版配布
2020年4月18日	2020年度改定版配布
2021年4月17日	2021年度改定版配布
2022年4月16日	2022年度改定版配布
2023年4月15日	2023年度改定版配布

## 1. 目的

平塚市では震度5強以上の地震発生時に災害対策本部を設置するため、平塚みどりヶ丘自主防災会としても、災害対応共助の一環として、災害対策本部を立ち上げる。

本マニュアルは、平塚みどりヶ丘自主防災会が地震発生後に迅速に活動する目的で、災害対策本部に関する組織、行動手順および通信に関する事項を記載したものである。

なお、新型コロナウイルスが終息するまでは、感染防止策を採ることとし、**新型コロナウイルス対策**の後に新型コロナウイルス感染防止策について記載する。

## 2. 地震発生時の災害対策本部の活動内容

### 2.1. 地震発生直後の災害対策本部の組織と行動手順

#### 2.1.1. 地震発生直後の災害対策本部の組織

全役員が対策本部に参集した場合を想定した組織構成を表 2-1 に示す。

表 2-1 災害対策本部の組織構成と活動概要（全役員が参集の場合）

**新型コロナウイルス対策** はコロナ対策

	担当名	構成人員		活動概要 <u>コロナ対策での役割</u>
		自主防災会役員 (自治会役員名)	防災チーム・ 防災サポーター	
1	全体統括	本部長 (会長) 本部長補佐 (監査役)	アドバイザー1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策本部の活動指示</li> <li>平塚市、避難所との折衝担当</li> </ul>
2	受付係	復旧支援部長 (庶務部長)	<u>受付係補佐1名</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対策本部の窓口、来訪者の誘導</li> <li><u>入室管理(検温、記録、洋室内人数調整)、ソーシャルディスタンス確保注意</u></li> </ul>
3	通信係	情報部長 (広報部長)	通信記録1名 <u>通信補助なし</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランシーバーによる通信</li> </ul>
4	情報整理係	情報副部長 (体振地区代表) 避難誘導部長 (福祉厚生部長) 会計部長	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>班長・情報班による安否確認結果、緊急事態の情報を整理</li> <li><u>ソーシャルディスタンス確保注意</u></li> </ul>
5	防災活動係 (1) 統括	防災部長 (交通防災部長) 防災部長補佐 (防災リーダー)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災活動係の編成・活動指示</li> <li><u>打合せ時の3密回避</u></li> </ul>
	(2) 広報チーム	—	2名×最大4チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部立上げ広報、被害</li> </ul>

			の情報収集、初期消火等の緊急活動
	(3) 緊急活動 チーム	防災チーム・防災サポーター、手の空いている役員で、2名以上 / チーム	・初期消火、救出救護、危険個所対応
	(4) 避難支援 チーム	防災チーム・防災サポーター、手の空いている役員で、避難要請者（注2）1名に1名	・避難支援のできない班の避難支援
	(5) 安否確認 チーム	防災チーム・防災サポーター、手の空いている役員で、2名 / チーム	・安否確認結果の来ない班の安否確認要請伝達
6	北公園支部係	復旧支援副部長 （環境部長） 避難誘導副部長 （体振地区副代表）	通信係 1名 一時避難場所係 2名
7	一時避難場所係 (1) 北公園 (2) 南公園	北公園支部係 2名兼任  副本部長 （副会長） 副本部長補佐 （監査役）	北公園支部係 2名兼任  2名
			・資機材の設置 ・通信 ・一時避難場所係兼務  ・一時避難者の対応 ・避難所への誘導 ・ <u>ソーシャルディスタンス確保注意</u>

注1 本部長および副本部長は災害対策本部としての呼び名。

2 避難要請者は、地震発生時に、避難行動要支援者制度に登録／非登録にかかわらず、避難支援を要請した者を指す。

## 2.1.2. 地震発生直後の災害対策本部における行動手順

### (1) 自助活動

- ・ 地震が収まった直後は、自身と家族の安全を確保する。
- ・ 火災発生の場合は、初期消火にあたる。家族に負傷者がでた場合は、救急車を要請する、病院に搬送するなど対応する。

### (2) 防災活動の開始

- ・ 震度5強以上の地震であることをテレビ・ラジオ・スマホ等で確認した場合は、家族の安全が確認できたならば、災害対策本部（集会所）に参集する。
- ・ 参集に際し、動きやすく、天候・気温や安全に配慮した服装で、水（ペットボトル）、携行食、懐中電灯、軍手、雨具、防寒具または暑さ対策など、状況に応じた品を携行し、ヘルメットを配布されている場合はヘルメットを被る。

#### 新型コロナウイルス対策

- ・ 以下の方は参集を見あわせる。
  - ①37度以上の熱がある。

②喉が痛いなどの風邪の症状などがあり、体調がすぐれない。

③味覚、臭覚に異常がある。

④同居の家族や身近な知人に濃厚接触者がいる。

なお、海外渡航からの帰国者は、体調を確認のうえ参加を判断することとする。

- ・ マスクは災害対策本部内では必須、本部外で任意とする。

### (3) 災害対策本部設置前準備

災害対策本部のレイアウト図（新型コロナウイルス対応）を図 2-1 に示す。

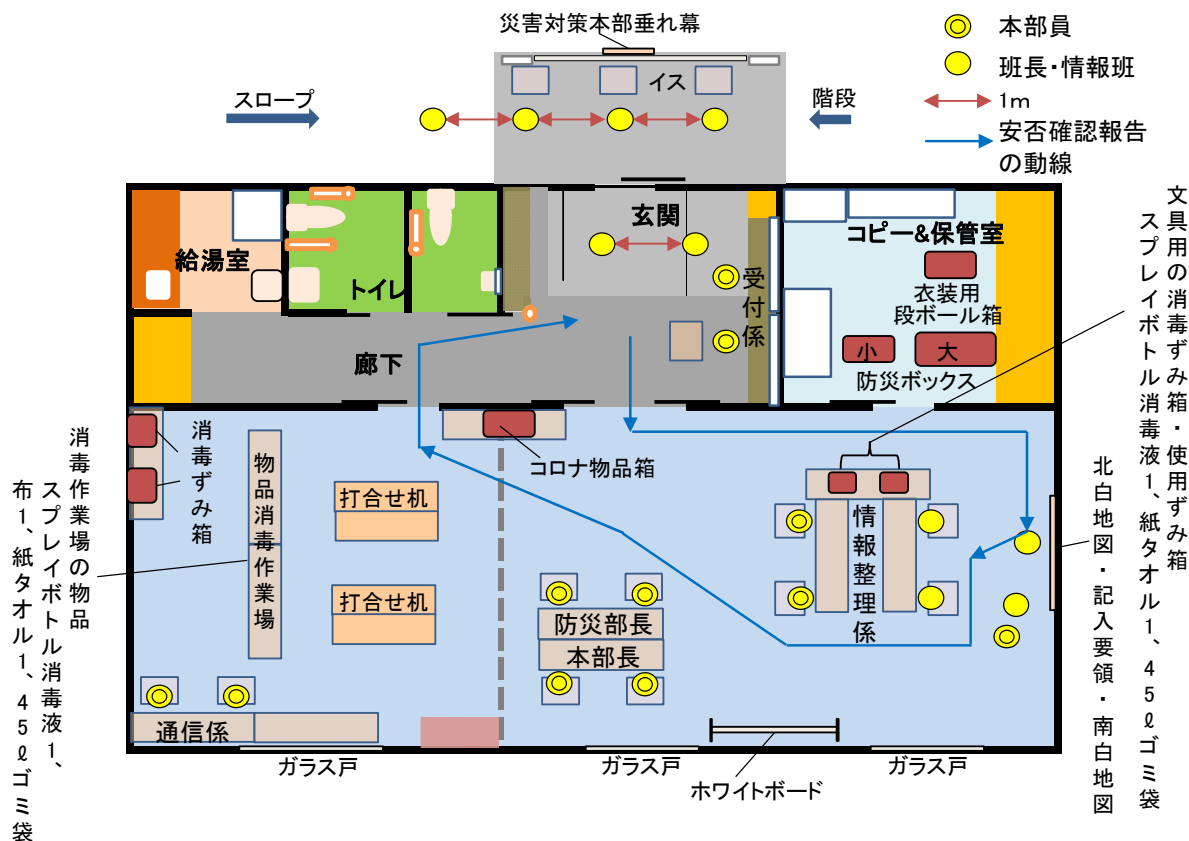


図 2-1 災害対策本部のレイアウト図（新型コロナウイルス対応）

#### 1) 集会所の解錠

平塚市ホームページ掲載用に、個人名は白抜きとしています

- ・ 集会所に最初に参集した人が集会所を開錠する。集会所の鍵は、自主防災会役員では、会長、副会長、会計部長、庶務部長、広報部長、交通防災部長が所持し、防災チームでは、WG1は さんが所持し、WG2は さんが所持し、WG3は さんが所持し、この他に防災専任本部員の さんが所持している。なお、 さんは集会所玄関前のお宅。

- ・ 次に、集会所の防災倉庫、南公園内防災倉庫を開錠する。防災倉庫の鍵は、防災ボックス内にある

#### 新型コロナウイルス対策

- ・ 参集者は全員、入室時に、消毒液で手指消毒、体温計測。

- ・ 気候的に可能であれば、玄関、ドア、ガラス戸は常時開放。常時開放が無理な場合は、30分ごとに5分程度開放する。
- ・ 待機時には最低1mあける。

## 2) 資機材の準備

- ・ 集会所洋室の掲示板に貼ってある「災害対策本部立上げの初動手順」および「災害対策本部レイアウト図」を参照しつつ、以下、「(3)災害対策本部設置前準備」、「(4)参集メンバーの確認および対策本部設置」、「(5)参集メンバーの確認および対策本部設置」の作業を行う。
- ・ 集会所のコピー室に保管されている以下の資機材を取り出す。  
防災ボックス大・小、衣装用段ボール箱、ランタン（夜間の場合）
- ・ 防災ボックス小内のマグネットカードを洋室大の机に並べる。
- ・ 防災ボックス小内の本部役割分担表を洋室大のホワイトボードに貼る。
- ・ 衣装用段ボール箱からビブスとゼッケンベストを取り出し、洋室大の机に並べる。
- ・ 夜間かつ停電の場合は、ランタンを洋室大の机に置く。

### 新型コロナウイルス対策

- ・ 後の作業時に3密を避けるため、ビブス、ゼッケンベスト、マグネットカード、活動用資料は洋室大側の机の上に、離して置く。
- ・ 集会所のコピー室に保管されているコロナ物品箱を取り出し、以下のコロナ対策物品を長机上に並べる。  
①手指用アルコール消毒液 ②フェイスシールド ③使い捨て手袋  
④マスク（予備） ⑤物品用消毒液 ⑥紙タオル ⑦45ℓポリ袋（ゴミ袋用）

## (4) 参集メンバーの確認および対策本部設置

### 1) 参集メンバーの確認

- ・ 参集メンバーは、自分のマグネットカードをホワイトボードの本部役割分担表に貼る。役割が決まっていない場合は、ホワイトボードの空いたところに貼る。
- ・ 会長が参集できない場合は、表 2-2 の会長代行順位に従って、その任を本部役員または防災リーダーが担う。

表 2-2 自主防災会と自治会の役員の対応と会長代行順位

自主防災会	自治会	会長代行順位
会長(本部長)	会長	
会長補佐(本部長補佐)	監査役(前年度会長)	1
副会長(副本部長)	副会長	2
副会長補佐(副本部長補佐)	監査役(前年度副会長)	3

防災部長	交通防災部長	4
防災部長補佐	防災リーダー(前年度交通防災部長)	5
情報部長	広報部長	
同副部長	体育振興地区代表	
避難誘導部長	福祉厚生部長	
同副部長	体育振興地区副代表	
復旧支援部長	庶務部長	
同副部長	環境部長	

- (注)1 会計部長は自治会と自主防災組織で同じ役割を果たす。  
2 会長、副会長の呼称は平常時に用い、本部長、副本部長の呼称は地震発生時に災害対策本部が立ち上がったときに用いる。

以下、会長を会長代行も含めて本部長と呼び、副会長を副本部長と呼ぶこととする。

## 2) 対策本部設置

- ・ 本部長の「災害対策本部設置宣言」で本部設営開始。
- ・ 防災ボックス内の対策本部の垂れ幕を、集会所玄関前の目隠しの外側に、養生テープで掲示する。(夜間かつ停電の場合はペン型ライトで照らす。)
- ・ 洋室大の掲示板の災害対策本部レイアウト図に従って机の配置を行う。
- ・ 停電の場合は、南の防災倉庫より、発電機とLED投光器を取り出し、対策本部洋室、玄関および南公園(一時避難場所)を照らす。

### 新型コロナウイルス対策

- ・ 長机1台にイス2脚とする。
- ・ コロナ用に以下を配置。
  - ▷ コロナ物品箱をのせる机、物品消毒作業場の机を配置。
  - ▷ 集会所のコピー室に保管されているコロナ物品箱、消毒ずみ箱、文具用の消毒ずみ箱・使用ずみ箱をレイアウト図にしたがって所定の机に設置。
  - ▷ 物品消毒作業場および情報整理係の机に、コロナ物品箱より、物品用消毒液、紙タオル、45ℓゴミ袋を準備。
  - ▷ トランシーバーの消毒方法を記載したラミネート加工のメモが防災ボックス大に入っているのので、物品消毒作業場に置く。
- ・ 作業時も密にならないように注意する。

## (5) 対策本部体制構築

### 1) 対策本部の最少構成人数

- ・ 対策本部の最少構成人数の目安は以下とする。(役)は役員、(防)は防災チームまたは防災サポーターを意味する。



本部長または本部長補佐：(役)1 防災部長または防災部長補佐：(役)1  
 受付係：(役)1 通信係：(役)1・(防)1 情報整理係：(役)2  
 広報チーム：(防)2×4 チーム 南公園一時避難場所係：(役)1・(防)1  
 北公園支部係：(役)2・(防)1  
 合計 (役)9・(防)11。

- ・ 最少構成人数に対応した広報チーム、緊急活動チームの決め方のフローを下図に示す。ただし、広報チームは1チーム2名以上とし、単独行動は不可。

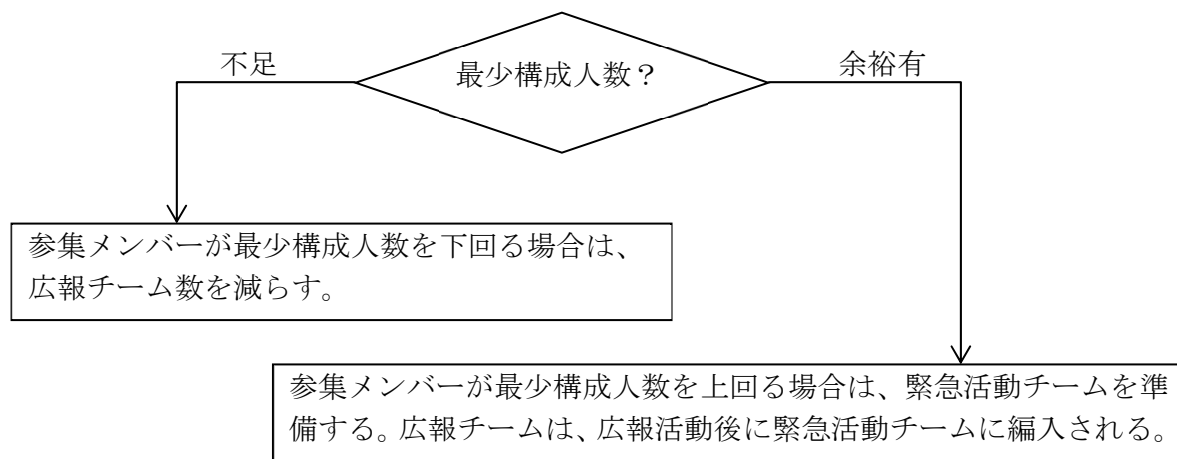


図 2-2 最少構成人数との関係による緊急活動チームと広報チームの決定フロー

## 2) 担当役割の決め方

- ① 本部役割分担表に従い、本部長・本部長補佐が参集していない担当を決める。
- ② 複数のメンバーがかかわる係についてはリーダーを決める。
- ③ 遅れて参集したメンバーの役割決定、組み替えも、本部長・本部長補佐が適宜行う。

以下は、対策本部の担当係ごとに示す。

## (6) 本部長・本部長補佐

### 1) 構成人員

本部長（または本部長代行者）、本部長補佐 計2名

### 2) 必要な資料・備品

特になし。

### 3) 着用

ゼッケンベスト（本部長用、本部長補佐用）

### 4) 活動内容

- ① 対策本部の活動全般を把握し、報告を受けて判断し、指示する。
- ② 避難支援対応

避難行動要支援者の対応は、本部長・本部長補佐が主管とする。

- (a) 情報整理係より、避難行動要支援者または避難行動要支援者制度に登録していない方（以下「制度非登録者」）からの避難支援要請を伝達された場合は、白地図で確認する。
  - (b) 情報整理係より、避難誘導班からの避難支援完了を伝達された場合は、白地図で確認する。
  - (c) 情報整理係より、避難支援要請に対し避難誘導班が対応困難な班があることを伝達された場合は、防災部長・防災部長補佐に、避難支援チームの出動を指示する。
- ③ 緊急事態対応
- (a) 防災部長・防災部長補佐より、緊急事態および緊急活動チーム出動の報告を受けた場合は、緊急事態の発生場所と事態の内容を白地図で確認する。
  - (b) 防災部長・防災部長補佐より、緊急事態対応の完了の報告を受けた場合は、緊急事態の発生場所と対応完了を白地図で確認する。
- ④ 安否確認対応
- 情報整理係より、安否確認報告のない自治会班の報告を受けた場合は、安否確認を要請するため、防災部長・防災部長補佐に、安否確認チームの出動を指示する。
- ⑤ 班長・情報班より、安否確認フォローの相談を受けた場合は協議する。
- ⑥ 平塚市災害対策本部、岡崎小学校避難所、他自治会等との連絡および折衝を行う。
- 新型コロナウイルス対策**
- ⑦ 本部長、支部員に対し、指示、報告受理、協議、相談など、最低 1m あけて打ち合わせる。
  - ⑧ 本部長補佐は、洋室内の活動をチェックし、密閉（換気）および密着（最低 1m の間隔確保）に関し注意・指導する。

## (7) 受付係

### 1) 構成人員

復旧支援部長（またはその代行者）、受付係補佐（防災チームまたは防災サポーター） 計 2 名

### 2) 必要な資料・備品

洋室・コピー室	小机1台（受付用）、イス3脚（玄関前待機用）
防災ボックス小	「受付係」フォルダーより、入室記録簿 クリップボード
防災ボックス大	LED 懐中電灯（夜間かつ停電の場合）

### **新型コロナウイルス対策**

コロナ物品箱	アルコール消毒液、非接触型体温計、マスク（予備）
--------	--------------------------

筆記用具は各自持参したものを使用。

### 3) 着用

ゼッケンベスト（受付係用）

#### 新型コロナウイルス対策

不特定多数の人と対応のため、以下を装着

コロナ物品箱 フェイスシールド、使い捨て手袋（ただし、いずれも装着は各自の判断によるとする）

### 4) 活動内容

- ① コピー室にある小机1台を受付用として玄関ロビーに置く。洋室にあるイス3脚を待機用として玄関前に1m間隔で置く。
- ② 対策本部に入室する全員に、入室記録簿に、氏名と班番号を記入してもらい、該当する所属に○をしてもらう。
- ③ 対策本部に安否確認結果・避難支援要請の報告に来た班長・情報班を、情報整理係に誘導する。
- ④ 避難支援完了の報告に来た避難誘導班を、情報整理係に誘導する。
- ⑤ 対策本部に相談に来た自治会員を担当係に割り振る。

#### 新型コロナウイルス対策

- ⑥ 対策本部に最初に入室する方の検温、マスクを忘れた人にマスクを配布。
- ⑦ 対策本部に入室する方に、毎回、手指消毒の指示。
- ⑧ 班長・情報班が安否確認結果・避難支援要請の報告に来た場合  
洋室大側に、報告者を2つの班4名まで入室させる。  
洋室外での待機は、土間、玄関前、スロープで、最低1m間隔を保って待機させる。玄関前に用意したイスに高齢者の報告者には座ってもらう。雨天の場合は、集会所敷地内に簡易テント、南公園にテントが用意できるのであれば、屋外待機の方をテントで待機してもらう。
- ⑨ 広報チームが帰還し報告する場合  
洋室大側に、1チーム2名のみ入室させる。  
2チーム目からは屋外で最低1m間隔を保って待機させる。
- ⑩ 安否確認結果報告の班長・情報班、帰還した広報チームには、まず緊急事態発見の有無を確認する。緊急事態発見の場合は、優先させて、情報整理係および本部長・本部長補佐に報告してもらう。
- ⑪ 緊急活動チームが帰還し報告する場合  
洋室大側に、1チーム2～3名のみ入室させる。  
2チーム目からは屋外で最低1m間隔を保って待機させる。
- ⑫ 広報チーム・緊急活動チームが資機材・文房具を消毒する場合  
洋室小側に、2チームまで入室させる。

3 チーム目からは屋外で最低 1m 間隔を保って待機させる。

## (8) 通信係

### 1) 構成人員

情報部長（またはその代行者）、情報部長補佐（記録担当）1 名（防災チームまたは防災サポーター） 計 2 名

### 2) 必要な資料・備品

防災ボックス小 「通信係」フォルダーより、通信記録表、みどりヶ丘地図  
白地図用文房具：赤のサインペン

防災ボックス大 トランシーバー

#### 新型コロナウイルス対策

筆記用具は各自持参したものを使用。

### 3) 着用

ゼッケンベスト（通信係用）

#### 新型コロナウイルス対策

隣りあう 2 名での会話の頻度が高いため、以下を装着

コロナ物品箱 フェイスシールド（ただし、装着は各自の判断によるとする）

### 4) 活動内容

- ① 防災ボックス小の「通信係」フォルダーから、通信係のための必要な備品メモおよび必要な資料を取り出し、備品メモにしたがって必要な備品を通信係用机にそろえる。
- ② 情報部長は、トランシーバーにより通信を行う。
- ③ 通信結果は、情報部長補佐（記録担当）が、情報部長の復唱を聞いて、通信記録表に必要事項を書きこむ。通信が頻繁で、復唱を聞いて記録することが難しい場合は、記録担当が通信担当といっしょに通信を聞き、通信担当に確認しながら記入する。
- ④ 緊急事態の連絡を受けた場合は、ただちに防災部長・防災部長補佐に報告するとともに、その情報を白地図に赤のサインペンで自ら書きこむ。

#### 新型コロナウイルス対策

- ⑤ トランシーバーの通信担当と記録担当は原則として交代しない。ただし、交代せざるをえない場合は、トランシーバーは物品用消毒液で消毒し、交代して使用する。なお、筆記用具は各自持参したものをを用いる。

## (9) 情報整理係

### 1) 構成人員

情報副部長、避難誘導部長、会計部長（または各役員の代行者） 計 3 名

## 2) 必要な資料・備品

防災ボックス小 「情報整理係」フォルダーより、みどりヶ丘白地図（北地区、南地区）、白地図への記入要領、白地図の下に貼る茶色の台紙、安否確認受付表

白地図用文房具：赤のサインペン、緑のノック式蛍光ペン

### 新型コロナウイルス対策

筆記用具は、白地図用を除き、各自持参したものを使用。

## 3) 着用

ゼッケンベスト（情報整理係用）

### 新型コロナウイルス対策

不特定多数の人と対応のため、以下を装着

コロナ物品箱 フェイスシールド、使い捨て手袋（ただし、いずれも装着は各自の判断によるとする）

## 4) 活動内容

① 防災ボックス小の「情報整理係」フォルダーから、情報整理係のための必要な備品メモおよび必要な資料を取り出し、備品メモにしたがって必要な備品をそろえる。

② みどりヶ丘白地図（北地区、南地区）および白地図への転記方法の計3枚を、集会所の洋室大を入れて左の壁に、養生テープにより、台紙の上に並べて貼る。（押しピンは使用不可）

③ 安否確認対応

班長・情報班による安否確認結果を受け付ける場合は、以下とする。

(a) 班長・情報班に安否確認チェックシートから白地図への転記を指示する。転記方法は、壁に貼った白地図への記入要領に記載されている。

(b) 着席してもらい、安否確認報告受付表に、班長・情報班に記載してもらう。

(c) 安否未確認の会員宅があった場合

・以下のように再確認することを説明する。

i) 1～2時間後に再確認。

未確認の場合は、隣家に当該会員の外出・長期不在を確認。

ii) i)で未確認の場合は、翌日再確認

さらに未確認の場合は、帰宅したら自治会班長に連絡するように書いたメモを郵便受けに入れる。

必要に応じて、再確認方法を、災害対策本部の本部長・本部長補佐と協議する。

・再確認後は安否確認チェックシートに上書きし、結果を災害対策本部に報告する。報告方法は初回と基本的に同じとする。安否未確認宅の外出・長期不

在が確認できたならば、その事もチェックシートに記載する。

北地区の自治会班は、2回目、3回目の再確認結果の報告は、北公園支部からトランシーバーによる通信によることができる。

- ・上記1)2)を実施した後、安否未確認の会員宅がある場合は、その旨を災害対策本部に報告し、安否確認を終了する。

#### ④ 避難支援対応

(a) 班長・情報班より、避難行動要支援者または「制度非登録者」から避難支援要請を受けた場合は、安否確認報告受付表に以下を記載してもらう。

- ▷ 避難支援要請を受けた避難行動要支援者または「制度非登録者」の氏名
- ▷ 避難支援要請を伝達した避難誘導班員の氏名

避難支援要請の内容は、本部長・本部長補佐に、ただちに報告する。

(b) 避難誘導班が避難支援完了の報告にきた場合は、安否確認報告受付表の該当欄に避難支援担当者の氏名を記載し、本部長・本部長補佐に報告する。

#### ⑤ 緊急事態対応

班長・情報班から緊急事態発見報告を受けた場合は、その情報を白地図に転記するように指示し、ただちに防災部長・防災部長補佐に報告する。

#### 新型コロナウイルス対策

⑥ ③④⑤の班長・情報班による報告では、文房具について以下に注意する。

(a) 白地図への転記では、緑のノック式蛍光ペンは消毒済み箱内のものを使ってもらい、使用後は使用済み箱に入れてもらう。

(b) 安否確認報告受付表への記載では、持参した筆記用具にて記入するよう指示する。

(c) 緊急事態を記載する場合は、赤のサインペンは消毒済み箱内のものを使ってもらい、使用後は使用済み箱に入れてもらう。

(d) 緑のノック式蛍光ペン、赤のサインペンは、数が限られているため、使用済み箱内のものは物品用消毒液で消毒し、紙タオルで拭いて消毒済み箱に移す。

### (10) 防災部長・防災部長補佐

#### 1) 構成人員

防災部長（またはその代行者）、防災部長補佐 計2名

#### 2) 必要な資料・備品

防災ボックス小 「防災部長・防災部長補佐」フォルダーより、広報経路図、広報用アナウンス基本メッセージ、作業指示用地図

クリップボード

コピー室キャビネット（左下） 避難行動要支援者の名簿、みどりヶ丘避難支援カード

## 新型コロナウイルス対策

筆記用具は各自持参したものを使用。

### 3) 着用

ゼッケンベスト（防災部長用、防災部長補佐用）

## 新型コロナウイルス対策

不特定多数の人と対応のため、以下を装着

コロナ物品箱 フェイスシールド（ただし、装着は各自の判断によるとする）

### 4) 活動内容

- ① 防災ボックス内の「防災部長・防災部長補佐」フォルダーから、防災部長・防災部長補佐のための必要な備品メモおよび必要な資料を取り出し、備品メモにしたがって必要な備品をそろえる。
- ② 広報チーム対応
  - (a) 広報チーム出動のために、本部に参集した防災チーム・防災サポーターより2名一組のチームを複数編成し、本部役割分担表にマグネットカードを並べて示す。理想は北1、北2、南1、南2の4地区に対応した4チームであるが、参集人数が少ない場合は、1チーム2名以上でチーム数を減らして対応する。
  - (b) 広報チーム出動前の打合せでは以下。
    - ▶ 広報経路図により広報経路を確認する。広報経路図には4チーム用が用意してある。3チーム以下の場合は経路を決めなおす。
    - ▶ 広報用アナウンス基本メッセージで広報内容を確認し、必要に応じて基本メッセージを追加あるいは書き換える。
    - ▶ 広報チーム出動時に、本部役割分担表のマグネットカードの赤表示を確認する。
  - (c) 広報チームが帰還したら以下。
    - ▶ 広報チームの報告を受ける。
    - ▶ 広報チームが緊急事態を発見した場合は、その情報をみどりヶ丘白地図にも記載するよう指示し、ただちに防災部長・防災部長補佐へ報告する。
    - ▶ 本部役割分担表のマグネットカードの白表示を確認する。
- ③ 緊急事態対応
  - (a) 通信係、情報整理係、広報チーム帰還組より、緊急事態の報告を受けた場合は、本部長・本部長補佐に報告後、緊急活動チームを編成する。
  - (b) 情報整理係および広報チーム帰還組が、口頭で緊急事態を報告し、本緊急事態が北公園支部に伝わっていない場合は、通信係に、北公園支部への本緊急事態を無線で伝達するように指示する。
  - (c) 緊急活動チームの編成は、防災チーム・防災サポーターの待機組または広報

チーム帰還組、手の空いている役員より、2名以上一組のチームを編成し、リーダーを決め、本部役割分担表にマグネットカードを並べて示す。

ただし、負傷者を担架で災害対策本部まで搬送する場合は6名一組とする。

- (d) みどりヶ丘白地図で緊急事態発生場所を確認して、作業指示用地図に転記し、緊急活動チームに説明し、必要に応じて以下の資機材の使用を指示する。なお、北地区の緊急事態で、北の防災倉庫に必要な資機材がある場合は、北の防災倉庫で調達する。

初期消火 街頭消火器（緊急事態発生場所の近隣のものを使用、地図で位置を確認）

救出救護 南または北の防災倉庫の必要な資機材、リヤカー、担架等

危険個所 防災ボックス内の立ち入り禁止テープ、  
南の防災倉庫の三角コーン（重し、横棒）

- (e) 緊急活動チーム出動時に、本部役割分担表のマグネットカードの赤表示を確認する。
- (f) 緊急活動チームが帰還したら、報告を受け、ただちに本部長・本部長補佐へ報告し、みどりヶ丘白地図に活動結果・活動完了を記載する。本部役割分担表のマグネットカードの白表示を確認する。

#### ④ 避難支援対応

- (a) 本部長・本部長補佐より、避難支援要請に対し避難誘導班が対応困難な班があり、避難支援チームの出動を指示された場合は、防災チーム・防災サポーターの待機組または広報チーム帰還組、手の空いている役員より、避難要請者1名に避難支援担当者1名を決め、本部役割分担表にマグネットカードを示す。ここに、避難要請者とは、避難行動要支援者および「制度非登録者」で、地震発生時に避難支援を要請した者を指す。

- (b) 避難要請者が避難行動要支援者の場合は、コピー室キャビネット（左下）より、その方のみどりヶ丘避難支援カードを取り出し、避難支援担当者に渡し、白地図で場所を確認し、出動を指示する。

避難要請者が「制度非登録者」の場合は、白地図で確認し、避難支援担当者に出動を指示する。

- (c) 避難支援担当者出動時に、本部役割分担表のマグネットカードの赤表示を確認する。
- (d) 避難支援担当者が帰還したら、報告を受け、担当者に安否確認報告受付表に記載を指示し、ただちに本部長・本部長補佐へ報告する。本部役割分担表のマグネットカードの白表示を確認する。

ただし、避難行動要支援者の新規登録者が当年度の10月または2月にいた場合は、その新規登録者の所属する自治会班の班長および避難誘導班には、新規登録者



の情報が伝達されていないため、自治会班長にコピー室キャビネット（左下）に保管してあるみどりヶ丘避難支援カードを渡し、避難誘導班に避難支援を頼むように要請する。

⑤ 安否確認対応

- (a) 本部長・本部長補佐より安否確認チームの編成の指示を受けた場合は、防災チーム・防災サポーターの待機組または広報チーム帰還組、手の空いている役員より、2名一組のチームを編成し、リーダーを決め、本部役割分担表にマグネットカードを並べて示す。
- (b) 安否確認を要請する自治会班の班長および情報班全世帯を、作業指示用地図に示す。
- (c) 安否確認チーム出動時に、本部役割分担表のマグネットカードの赤表示を確認する。
- (d) 安否確認チームが帰還したら、報告を受け、ただちに本部長・本部長補佐へ報告する。本部役割分担表のマグネットカードの白表示を確認する。

**新型コロナウイルス対策**

- ⑥ 広報チーム、緊急活動チーム、避難支援チーム、安否確認チームの編成と出動前の打合せは、洋室小の打合せ用机を使用し、それぞれが最低1mの間隔を保つ。
- ⑦ 広報チーム帰還後は、使用した資機材・文房具は、物品消毒液で消毒をするよう指示する。
- ⑧ 緊急活動チーム出動時には、消毒ずみ箱の資機材・文房具を使用するよう指示する。帰還後は、使用した資機材・文房具は、物品消毒液で消毒するよう指示する。

**(11) 広報チーム**

1) 構成人員

防災チームまたは防災サポーター 2名×最大4チーム

2) 必要な資料・備品

防災ボックス小 「広報チーム」フォルダーより、広報経路図、広報用アナウンス基本メッセージ  
クリップボード  
防災ボックス大 トランシーバー  
南の防災倉庫 拡声器、メガホン

**新型コロナウイルス対策**

筆記用具は各自持参したものを使用。

3) 着用

ビブス

4) 活動内容

- ① 防災ボックス内の「広報チーム」フォルダーから、広報チームのための必要な備品メモおよび必要な資料を取り出し、備品メモにしたがって必要な備品をそろえる。
- ② 本部に参集した防災チーム・防災サポーターは防災部長・防災部長補佐のもとに集合し、2名一組のチームを複数編成する。理想は北1、北2、南1、南2の4地区に対応した4チームであるが、参集人数が少ない場合は1チーム2名以上でチーム数を減らして対応する。
- ③ 広報チーム出動前の打合せでは以下。
  - (a) 広報経路図により広報経路を確認する。広報経路図には4チーム用が用意してある。3チーム以下の場合は経路を決めなおす。
  - (b) 広報用アナウンス基本メッセージで広報内容を確認し、必要に応じて基本メッセージを追加あるいは書き換える。
  - (c) 広報チームは出動時に、本部役割分担表のマグネットカードを赤表示にかえる。
  - (d) 広報チームは出動時に、トランシーバーの電源を入れて通信可能な状態にする。
- ④ 広報チームは、広報経路で、広報用アナウンス基本メッセージに記載した方法にしたがって拡声器を用いて広報する。

途中、火災、負傷者、危険箇所の緊急事態を発見した場合は、トランシーバーにより対策本部に連絡し、以下の対応を採る。

  - (a) 火災

火災を発見した場合は、直ちにその会員宅に声をかけ、消防署に連絡するとともに、隣近所にも呼びかけ、街頭消火器、家庭用消火器にて消火にあたる。火災一段落後、広報活動を続ける。
  - (b) 負傷者

負傷者を発見した場合は、家族の方に病院への搬送を依頼し、依頼できる者がいない場合は、その旨を本部へ通信連絡する。一段落後、広報活動を続ける。
  - (c) 危険箇所

倒木、電柱破損などの危険箇所を発見した場合は、本部に通信連絡し、緊急活動チームが到着後、広報活動を続ける。
- ⑤ 広報チーム帰還後は以下。
  - (a) 防災部長・防災部長補佐に報告する。緊急事態発見の場合は、ただちに部長・本部長補佐へ報告し、その情報をみどりヶ丘白地図にも記載する。
  - (b) 本部役割分担表のマグネットカードを白表示にかえる。

#### **新型コロナウイルス対策**

- ⑥ 広報チーム出動前の打合せは、洋室小の打合せ用机を使用し、それぞれが最低1m

の間隔を保つ。

- ⑦ 広報チーム広報時は、出勤して帰還するまで、拡声器、メガホン（広報担当）、トランシーバー（通信担当）、クリップボード（記録担当）は、2名のうちどちらかに使用を限定し、交代して使用しない。筆記用具は各自持参のものを用いる。
- ⑧ 広報チーム帰還後は、報告のための洋室入室は1チームのみとし、2チーム目からは屋外で最低1m間隔を保って待機する。
- ⑨ 広報チーム報告後は、使用した資機材はすべて、物品用消毒作業場で、物品用消毒液で消毒し、消毒ずみ箱に入れる。トランシーバーは消毒方法のメモにしたがって消毒する。  
消毒作業のための洋室入室も、1チームのみとし、2チーム目からは屋外で最低1m間隔を保って待機する。
- ⑩ 広報チーム活動終了後は、屋外で待機する。雨天の場合は、南公園にテントが用意できるのであれば、テントで待機する。

## (12) 緊急活動チーム

### 1) 構成人員

防災チーム、防災サポーター、手の空いている役員 2名以上×編成可能なチーム数

### 2) 必要な資料・備品

防災ボックス大 トランシーバー

緊急活動に必要な以下の資機材を準備する。

- 初期消火 街頭消火器（緊急事態発生場所近隣のものを使用）
- 救出救護 南または北の防災倉庫の必要な資機材、リヤカー、担架等
- 危険個所 防災ボックス内の立ち入り禁止テープ、  
南の防災倉庫の三角コーン（重し、横棒）

### 新型コロナウイルス対策

筆記用具は各自持参したものを使用。

トランシーバーは、未使用のものが無い場合は、消毒ずみ箱内のもの、あるいは使用ずみ箱のものを消毒して使用。

### 3) 着用

ビブス

### 4) 活動内容

- ① 防災チーム・防災サポーターの待機組または広報チーム帰還組、手の空いている役員は、防災部長・防災部長補佐の指示にしたがい、2名以上一組の緊急活動チームを編成し、リーダーを決め、本部役割分担表にマグネットカードを並べて示す。
- ② 緊急活動チーム出勤前は以下。

- (a) 防災部長・防災部長補佐より渡された作業指示用地図に転記された緊急事態発生場所を確認し、緊急事態に応じた資機材を準備する。
  - (b) 緊急活動チーム出動時に、本部役割分担表のマグネットカードを赤表示にかえる。
  - (c) 緊急活動チームは出動時に、トランシーバーの電源を入れて通信可能な状態にする。
- ③ 緊急活動チームは、緊急事態発生場所に到着したら、対策本部にトランシーバーにより現場の状況を連絡する。
  - ④ 緊急活動チーム帰還時には以下。
    - (a) 防災部長・防災部長補佐に報告する。
    - (b) 本部役割分担表のマグネットカードを白表示にかえる。

#### **新型コロナウイルス対策**

- ⑤ 緊急活動チームの編成と出動前の打合せは、洋室小の打合せ用机を使用し、それぞれが最低 1m の間隔を保つ。
- ⑥ 緊急活動チーム活動時は、出動して帰還するまで、トランシーバー（通信担当）、クリップボード（記録担当）は、2 名以上のメンバーのうち 1 名に使用を限定し、交代して使用しない。筆記用具は各自持参のものをを用いる。
- ⑦ 緊急活動チーム帰還後は、報告のための洋室入室は 1 チームのみとし、2 チーム目からは屋外で最低 1m 間隔を保って待機する。
- ⑧ 緊急活動チーム報告後は、使用した資機材はすべて、物品用消毒作業場で、物品用消毒液で消毒し、消毒済み箱に入れる。トランシーバーは消毒方法のメモにしたがって消毒する。

消毒作業のための洋室入室も、1 チームのみとし、2 チーム目からは屋外で最低 1m 間隔を保って待機する。
- ⑨ 緊急活動チーム活動終了後は、屋外で待機する。雨天の場合は、南公園にテントが用意できるのであれば、テントで待機する。

### **(13) 避難支援チーム**

#### 1) 構成人員

防災チーム、防災サポーター、手の空いている役員 避難要請者 1 名に対し 1 名

#### 2) 必要な資料・備品

避難要請者が避難行動要支援者の場合は、防災部長・防災部長補佐が必要な資料を準備する。

避難要請者が制度非登録者の場合は資料はない。

#### 3) 着用

ビブス

#### 4) 活動内容

- ① 防災チーム・防災サポーターの待機組または広報チーム帰還組、手の空いている役員は、防災部長・防災部長補佐の指示にしたがい、避難要請者 1 名に対し 1 名が担当し、本部役割分担表にマグネットカードを貼る。
- ② 避難支援担当者の出動前は以下。
  - (a) 避難要請者が避難行動要支援者の場合は、防災部長・防災部長補佐より、みどりヶ丘避難支援カードを渡されるので、白地図でお宅を確認する。  
避難要請者が「制度非登録者」の場合は、白地図でお宅を確認する。
  - (b) 避難支援出動時に、本部役割分担表のマグネットカードを赤表示にかえる。
- ③ 避難支援の実施は以下。
  - (a) 避難支援担当者は、担当となった避難行動要支援者または「制度非登録者」のお宅に行き、インターフォンを押して、避難支援に来たことを伝える。
  - (b) 避難行動要支援者の場合は、みどりヶ丘避難支援カードにしたがい、その場で本人・家族に確認しつつ、一時避難場所、必要に応じて避難所（岡崎小学校）まで避難支援を行う。  
「制度非登録者」の場合は、その場で本人・家族と話し合い、一時避難場所、必要に応じて避難所（岡崎小学校）まで避難支援を行う。
- ④ 避難支援の報告は以下。
  - (a) 避難支援担当者は、避難行動要支援者または「制度非登録者」の避難支援が完了したならば、災害対策本部（集会所）に戻り、報告する。
  - (b) 帰還時には、防災部長・防災部長補佐に報告する。  
本部役割分担表のマグネットカードを白表示にかえる。
  - (c) 情報整理係が担当の安否確認報告受付表に、避難支援担当者自ら、必要事項を記入する。

#### 新型コロナウイルス対策

- ⑤ 避難支援担当者の出動前の打合せは、洋室小の打合せ用机を使用し、それぞれが最低 1m の間隔を保つ。
- ⑥ 避難支援担当者の帰還後は、受付係の指示にしたがって入室し、入室指示があるまでは屋外で最低 1m 間隔を保って待機する。

#### (14) 安否確認チーム

##### 1) 構成人員

防災チーム、防災サポーター、手の空いている役員 2 名以上×必要なチーム数

##### 2) 必要な資料・備品

特になし。

##### 3) 着用

ビブス

#### 4) 活動内容

- ① 防災チーム・防災サポーターの待機組または広報チーム帰還組、手の空いている役員は、防災部長・防災部長補佐の指示にしたがい、2名一組の安否確認チームを編成し、リーダーを決め、本部役割分担表にマグネットカードを並べて示す。
- ② 安否確認チーム出動前は以下。
  - (a) 防災部長・防災部長補佐より渡された作業指示用地図で、安否確認を要請する自治会班の班長および情報班全世帯を確認する。
  - (b) 安否確認チーム出動時には、本部役割分担表のマグネットカードを赤表示にかえる。
- ③ 安否確認チーム帰還時は以下。
  - (a) 防災部長・防災部長補佐に報告する。
  - (b) 本部役割分担表のマグネットカードを赤表示にかえる。

#### 新型コロナウイルス対策

- ④ 安否確認チームの編成と出動前の打合せは、洋室小の打合せ用机を使用し、それぞれが最低1mの間隔を保つ。

### (15) 南公園一時避難場所係

#### 1) 構成人員

副本部長（またはその代行者）、副本部長補佐、防災チーム・防災サポーター2名  
計34名

#### 2) 必要な資料・備品

防災ボックス小 クリップボード

南公園内防災倉庫 メガホン、ブルーシート、テント張り用ポール

#### 新型コロナウイルス対策

コロナ物品箱 アルコール消毒液、マスク（予備）

筆記用具は各自持参したものを使用。

#### 3) 着用

ゼッケンベスト（一時避難場所係用）

#### 4) 活動内容

- ① 防災ボックス小の「南公園一時避難場所係」フォルダーから、南公園一時避難場所係のための必要な備品メモを取り出し、備品メモにしたがって必要な備品をそろえる。
- ② 本部長・本部長補佐に南公園一時避難場所係の出動を伝え、本部役割分担表のマグネットカードの赤表示にかえ出動する。
- ③ 南公園内防災倉庫よりブルーシートとテント張り用ポールを取り出し、一時避難

してきた自治会員とともに、藤棚テントを張り、藤棚テントを一時避難場所とする。夜間の場合は、発電機を作動させ、LED 投光器を点灯させる。

- ④ 一時避難場所係としての一時避難者対応としては以下。
  - (a) 南公園が一時避難場所であること、避難所開設の連絡があるまで待機することを、メガホンを使って説明する。
  - (b) 負傷者、体調不良の方で、ただちに治療が必要な場合は、家族に病院へ搬送するようお願いする。依頼する家族がいない場合は、対策本部に連絡して対応を相談する。
  - (c) 岡崎小学校避難所への避難希望者数を確認する。
- ⑤ 対策本部から岡崎小学校避難所への避難の指示があったならば、以下のように行動する。
  - (a) 岡崎小学校避難所へは、いずれかの自治会班の避難誘導班がいる場合は、誘導をお願いする。
  - (b) 避難誘導班がいない場合、あるいは避難誘導班が避難行動要支援者・「制度非登録者」の避難支援で余裕がない場合は、一時避難場所係1名が付き添う。一時避難場所係が人数不足により付き添えない場合は、避難者の中から避難誘導担当を選び、お願いする。
  - (c) 体調不良の方、脚が不自由な方、負傷者等、徒歩での移動が困難な場合は、自動車等に乘せて搬送する。

なお、一時避難場所から避難所へは複数回避難することとなり、上記(a)～(c)を複数回行うこととなる。

#### 新型コロナウイルス対策

- ⑥ 一時避難者がマスクをしていない場合は、マスクを配布する。
- ⑦ 一時避難者に、最低1m間隔を保って待機するよう呼びかける。
- ⑧ 一時避難場所係、一時避難者とも、必要に応じて、手指をアルコール消毒液で消毒する。
- ⑨ メガホン等の資機材はできるだけ使用者を限定して使用する。交代で使用する場合は、資機材をアルコール消毒して使用する。

### (16) 北公園支部係（北公園一時避難場所係）

#### 1) 構成人員

復旧支援副部長、避難誘導副部長（または各役員の代行者）、防災チーム・防災サポーター3名（通信担当1名、一時避難場所係2名） 計5名

#### 2) 必要な資料・備品

防災ボックス大 北公園支部係用トートバッグ  
北の防災倉庫の鍵（トートバッグに備え付けてあるか確認）

「北公園支部係」フォルダーより、通信記録表、みどりヶ丘  
地図

クリップボード

トランシーバー

北の防災倉庫      メガホン、藤棚テント用資機材

#### 新型コロナウイルス対策

コロナ物品箱      アルコール消毒液、マスク（予備）

筆記用具は各自持参したものを使用。

### 3) 着用

ビブス

### 4) 活動内容

- ① 防災ボックス内の「北公園支部係」フォルダーから、北公園支部係のための必要な備品メモを取り出し、備品メモにしたがって必要な備品をそろえ、北公園支部係用トートバッグに入れる。（すでにトートバッグに入っているものもある。）
- ② 本部長・本部長補佐に北公園支部係の出動を伝え、本部役割分担表のマグネットカードの赤表示にかえ出動する。
- ③ 通信担当は、出動時にトランシーバーの電源を入れて通信可能な状態にし、北公園に到着したならばトランシーバーにより北公園到着を本部に報告する。以後、北公園支部として、本部との必要な通信を行う。
- ④ 北公園支部係のうち通信担当以外の者は、北の防災倉庫を開錠し、必要資機材を取り出し、簡易テントを組み立て、テント下に机、イスをセットする。
- ⑤ 北公園支部係のうち通信担当以外の者は、一時避難場所係として、一時避難してきた自治会員と協力して、北の防災倉庫の必要な資機材を使って藤棚テントを張り、藤棚テントを一時避難場所とする。夜間かつ停電の場合は、発電機を作動させ、LED 投光器を点灯させる。
- ⑥ 一時避難者対応としては、「(15)南公園一時避難場所係」の「4) 活動内容 ④」と同じとする。
- ⑦ 対策本部から岡崎小学校への避難の指示があったならば、「(15)南公園一時避難場所係」の「4) 活動内容 ⑤」と同じとする。

#### 新型コロナウイルス対策

- ⑧ 「(15)南公園一時避難場所係」の「4) 活動内容 ⑥～⑨」と同じとする。



## 2.2. 復旧期間の災害対策本部の組織と活動内容

### 2.2.1. 復旧期間の災害対策本部の組織

- ・ 復旧期間には、災害対策本部は、自主防災会としてみどりヶ丘地区の災害対応共助の活動を行う。
- ・ 復旧期間の災害対策本部（自主防災会）の組織は、表 2-1 と同じとする。

### 2.2.2. 復旧期間の災害対策本部における活動内容

#### (1) 会議の開催

- ① 災害対策本部としての会議を定期あるいは不定期に開催し、平塚市災害対策本部、岡崎小学校避難所、岡崎自治会連絡協議会、岡崎地区地域活動推進会議、平塚市ボランティアセンターなどからの連絡事項を伝達するとともに、自治会員からの要望もふくめ、復旧のための活動について協議する。
- ② 会議参加者は、基本的に平常時の自治会定例会と同じとし、自治会役員（自主防災会役員）および班長とする。
- ③ 災害対策本部から自治会員への情報伝達は、以下とする。
  - (a) 緊急連絡  
緊急連絡は、以下のいずれかで伝達される。
    - ▷ 広報チーム等の巡回によるアナウンス。
    - ▷ 自治会班長から情報班員に伝達され、情報班員が分担して班内各戸に伝達。
  - (b) 通常連絡  
通常連絡は、平常時の自治会と同様に、回覧または緊急回覧で伝達される。

#### 新型コロナウイルス対策

- ④ 会議への参加者は、本部長・本部長補佐が相談し、洋室大小合わせて 28 名程度以内となるように、必要最少のメンバーを招集する。招集メンバーのリストは作成する。
- ⑤ 会議の参加者は全員、入室時に、消毒液で手指消毒、体温計測を行う。
- ⑥ 長机 1 台にイス 2 脚とし、両隣および対面で最低 1m の間隔を保つ。
- ⑦ 会議中には、気候的に可能であれば、玄関、ドア、ガラス戸は常時開放。常時開放が無理な場合は、30 分ごとに 5 分程度開放する。
- ⑧ 会議終了後は、清掃とともに、長机およびイスなど、手を触れたところは消毒する。

#### (2) 避難所外避難者の調査

- ① 岡崎小学校避難所に避難されない方には以下の 3 種類あり、これらの方々を避難所外避難者と呼ぶ。

在宅避難者　： 自宅で生活している方

車中泊避難者： 自宅のカーポート、または自宅近くのコンビニエンスストア、

スイミングスクール等の駐車場に自家用車を駐車し、自家用車に寝泊まりしている方

公園等避難者：自宅近くの公園、空き地でテントを設営して生活している方  
自主防災会としては、これらの避難所外避難者に対する支援を、岡崎小学校避難所を通じて平塚市に求めることとなる。

- ② 自主防災会としては、みどりヶ丘地区の避難所外避難者の世帯数および人数について調査し、岡崎小学校避難所より配布された様式「自治会担当地区の避難所外避難者・被災状況報告書」に記入し、避難所に報告する。この調査にあたっては、非自治会員も含める。調査結果の提出は、地震発生後1週間程度を目安とする。

### (3) 被災状況の調査

- ① 平塚市より自治会担当地区の被災状況の報告が求められるため、みどりヶ丘地区においても、自主防災会として被災状況を調査し、岡崎小学校避難所より配布された様式「自治会担当地区の避難所外避難者・被災状況報告書」に記入し、避難所に報告する。調査結果の提出は、地震発生後1週間程度を目安とする。

### (4) 避難所外避難者の必要物資の調査と配給

#### ① 必要物資の調査

みどりヶ丘地区の避難所外避難者が必要とする食料、飲料水、生活用品を調査し、岡崎小学校避難所より配布された様式「自治会担当地区の物資依頼票」に記入し、避難所に依頼する。この調査にあたっては、非自治会員も含める。岡崎小学校避難所から平塚市に必要物資の配給を要請することとなる。

必要物資の調査は、各自治会班の復旧支援班が、必要量（必要人数分）を、個別訪問による聞き取り、あるいは、回覧により実施する。

#### ② 必要物資の受領

岡崎小学校避難所から食料、飲料水、生活用品が配送されるという連絡があった場合は、対策本部から各自治会班に連絡し、復旧支援部長・副部長の指揮のもと、各自治会班の復旧支援班が配送場所である岡崎小学校避難所まで配給物資を受け取りに行く。

飲料水については、平塚市備蓄分のペットボトルによる配給となり、各自治会班の必要量はかなりの重量となるため、車での運搬となる。平塚市の協定業者の給水車により飲料水が配給される場合で、みどりヶ丘地区内が給水場所となる場合は、各自治会員がみずから給水を受けることとし、復旧支援班は、給水場所での給水を手伝うとともに、高齢者世帯など支援を必要とする自治会員に対して給水容器の運搬などの活動を行う。なお、給水容器は各自治会員が用意したものをを用いる。

#### ③ 必要物資の配給

受領した食料、飲料水、生活用品は、各自治会班の復旧支援班が、自治会員および非自治会員への配給を担当する。配給にあたっては、個別訪問して配給する方法、班内の一か所を配給場所とし各会員に連絡して取りにきてもらう方法、があり、適宜判断して選択する。

## (5) ごみの対応

ごみの対応については、平塚市・環境部への問い合わせ結果（2022年10月）および「平塚市災害廃棄物等処理計画 令和元年9月改訂 平塚市」より、以下の通りとする。

### ① 災害時のごみの分類

災害時のごみは、下表のように分類される。

表 2-3 災害時のごみの分類

分類	説明	本マニュアルでの略称
家庭ごみ	復旧期間に家庭から排出されるごみで、燃えるごみ、不燃ごみ、プラクル、資源再生物に分類され、凝固剤を入れた便袋も燃えるごみとする。	「生活ごみ」
災害廃棄物	災害により発生したごみで、市町村等が処理を実施し、以下の二つに分けられる。 ・ 住民が自宅内にある被災したものを片付ける際に排出されるごみ ・ 損壊家屋の撤去・解体に伴い排出される廃棄物	「片付けごみ」  「解体廃棄物」

### ② 災害時のごみの対応

復旧期間に自治会員が対応する必要がある「生活ごみ」と「片付けごみ」について、以下に示す。なお、損壊家屋の撤去・解体および「解体廃棄物」の処理は、本マニュアルの範疇を超えているため、省略する。

#### (a) 「生活ごみ」の対応

- ・ 「生活ごみ」は、平常時と同様の収集方法を基本とするが、大地震発生による平常時と異なる点を以下に述べる。

平塚市によると、災害規模によるが、ごみ処理施設や収集車両の被害状況、道路の被災状況、および他自治体への応援要請等に3日程度かかると想定しており、収集から処理までの体制が確立できれば、「生活ごみ」の収集を再開する、としている。また、地震発生直後のごみ出しの停止については、平塚市のホームページへの掲示、避難所（岡崎小学校）への連絡、防災行政無線等、により協力を求める、としている。

上記より、災害時の「生活ごみ」に関しては、市の広報指示に従うことを前提とし

て、原則、ごみ当番の輪番制は維持することとするが、災害の程度により対応不可の場合は自主防災会の判断により復旧支援班の担当とする。自治会員のごみ出しとごみ集積場の管理については以下とする。

- ▷ 震度 5 強以上の地震発生時には、自主防災会として、地震発生直後から 3 日間はごみ集積場へのごみ出しは停止とする。
- ▷ 平塚市からのごみ収集再開の情報があつたならば、ごみ出しの再開を、自主防災会から班長、復旧支援班を通じて伝達する。
- ▷ 平塚市から、生ごみ等の燃えるごみを優先的に収集するため、不燃ごみ・プラクル・資源再生物の家庭での一時的保管の要請が自主防災会にあつた場合は、班長、復旧支援班を通じて伝達する。

#### (b) 「片付けごみ」の対応

- ・ 「片付けごみ」は、燃えるごみ、不燃ごみ、資源再生物、粗大ごみに分別される。
- ・ 「生活ごみ」と同様に、ごみ集積場のごみ収集が再開したならば、分別し、粗大ごみ以外はごみ集積場にすてることができる。
- ・ 地震の規模が大きく、「片付けごみ」が非常に多い場合は、「仮置場」に収集することとなり、以下の対応となる。なお、自主防災会としては「仮置場」の対応は情報伝達のみとなり、住民（自治会員、非自治会員）が「仮置場」に各自持ち込むこととなる。
  - ▷ 平塚市からの要請により、「片付けごみ」は、一定期間、家庭で保管する。
  - ▷ 平塚市から、地区の公園（例えば、みどりヶ丘北公園、みどりヶ丘南公園）が「片付けごみ」の「仮置場」に指定される。「仮置場」の設置は 3 週間程度。
  - ▷ 平塚市からの指示にしたがって、住民（自治会員、非自治会員）が、「片付けごみ」を分別し、「仮置場」に運び込む。この場合、分別および運び込みの具体的な方法は、自主防災会から班長、復旧支援班を通じて伝達する。
  - ▷ 「仮置場」は、平塚市職員または平塚市からの委託業者が管理・指導する。

### (6) ボランティア

- ① 災害廃棄物の片づけ、転倒した家具の片づけ等にボランティアを必要とする場合は、以下の手順となる。
  - (a) 自治会班ごとにボランティアを必要とする作業量の調査
  - (b) 班長が災害対策本部に報告
  - (c) 災害対策本部がまとめて平塚市のボランティアセンターに連絡
  - (d) 平塚市のボランティアセンターよりボランティアが派遣された場合、班長を経由してボランティア依頼者に伝達
  - (e) ボランティア依頼者が派遣されたボランティアに作業指示

## (7) 避難情報の収集・整理

- ① 自治会会員の避難情報については、避難先、連絡先の情報を収集・整理し、一覧表にするとともに、災害対策本部（集会所）内のみどりヶ丘白地図の横に表示するなどし、外部からの問い合わせに対応できるようにする。避難としては、岡崎小学校避難所への避難、他地域への避難がある。
- ② 避難情報は、防犯のために、避難者宅や自治会掲示板には掲示しないこととする。

## (8) 防犯パトロール

- ① 避難による空き家対策として、防犯のためのパトロールを必要に応じて実施する。

### 新型コロナウイルス対策

(1)～(8)の活動ごとに、新型コロナウイルス対策として、以下とする。

(a) 対策本部（集会所）での会合あるいは作業

- ①参加前の体調確認（体調不良の場合の参加見合わせ）
- ②マスクの着用 ③入室時の検温と消毒 ④最大人数 28 程度の制限
- ⑤ソーシャルディスタンス（最低 1m 間隔）の確保
- ⑥30 分ごとに 5 分程度の換気

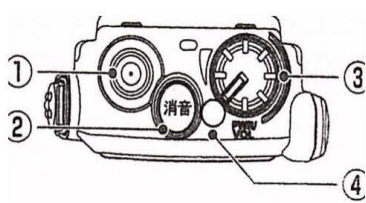
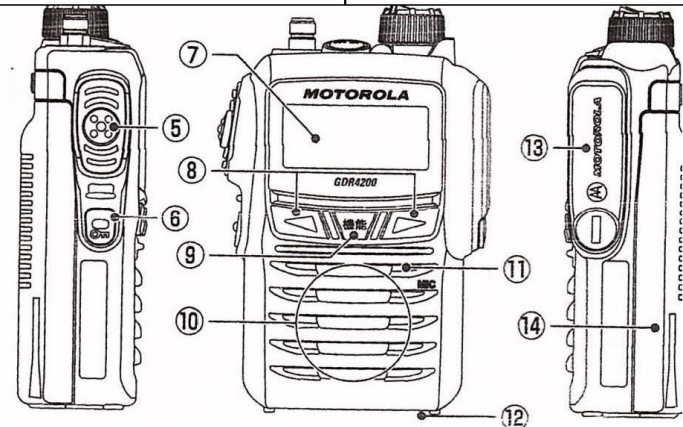
(b) 屋外での作業

- ①参加前の体調確認（体調不良の場合の参加見合わせ）
- ②マスクの着用
- ③ソーシャルディスタンス（最低 1m 間隔）の確保

### 3. トランシーバー使用方法

#### 3.1. 通話操作および通話要領

#### トランシーバー使用・操作・通話要領

<p><b>(A)ハード 基本操作</b> ＜機種＞ 自治会所有 MOTOROLA-DR4200 様式：充電式で乾電池 使用不可 所有台数：5台 (2021年2月末時点)</p>	<p>設定～・UC（ユーザーコード）通信、UCは111 ・送信出力はN（Normal Power） (下図⑨機能キーを長押しすることで設定可能。下図⑤PTTボタンで戻る) ・キーロックはON（設定と解除は下図⑥キーロックキーを長押しする）</p> <p><b>I</b> 電源を <b>ON</b> 下図③PWR/VOLつまみでON/OFFと音量を調整する <b>II</b> チャンネルを <b>CH03</b> 設定済だが異なっていた場合は下図⑧白▽キーで設定 <b>III</b> <b>アンテナをセット</b> 下図①に専用のアンテナを取付ける（取付け無しでも送受信は可能）</p>	
<p><b>(B)通話操作</b> 交信は一方通行、双方 交信ができないこと</p>	<p><b>I</b> 話す側～ ・<b>通話（PTT）ボタン</b>のままで話す。 (話がすんだら通話ボタンを離す)</p>	<p>・赤色ランプ点灯。 ・スピーカーから<b>5cm</b>位離して話す。</p>
<p><b>(C)通話要領</b>  * <b>重要文句</b> ・こちら ・どうぞ ・以上</p>	<p style="text-align: center;"><b>人物 A</b></p> <p><b>I</b> (送信) <b>こちら A, B どうぞ</b></p> <p style="text-align: center;">→</p> <p><b>IV</b> (受信)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>V</b> (送信) <b>こちら A, (用件伝える)。B どうぞ</b></p> <p style="text-align: center;">→</p>	<p style="text-align: center;"><b>人物 B・・・</b></p> <p><b>II</b> (受信)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>III</b> (送信) <b>こちら B, A どうぞ</b></p> <p style="text-align: center;">←</p> <p><b>VI</b> (受信)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>VII</b> (送信) <b>こちら B, A 了解しました。以上</b></p>
<p><b>(D) 図解</b></p> 		
<p>① アンテナコネクター、②消音キー、③PWR/VOLつまみ、④LEDインジケター、⑤PTTボタン、⑥キーロックキー、⑦フルトクトディスプレイ、⑧▽キー、⑨機能キー、⑩スピーカー、⑪マイク、⑫ノイズキャンセリングマイク、⑬アクセサリコネクター端子、⑭リチウムイオン電池パック</p>		

### 3.2. 通信方法

1) 現在位置は、みどりヶ丘地区の座標（横：A～P、縦1～23）の組合せで伝える。座標図を次ページに示す。

2) 横座標のアルファベットは、通信用として以下の呼称を用いる。

A Alfa (アルファ) B Bravo (ブラボー) C Charlie (チャーリー)  
D Delta (デルタ) E Echo (エコー) F Fox (フォックス)  
G Golf (ゴルフ) H Hotel (ホテル) I India (インディア)  
J Japan (ジャパン) K Kilo (キロ) L London (ロンドン)  
M Mama (ママ) N November (ノーベムバー) O Oscar (オスカー)  
P Papa (パパ)

3) 通信例は以下。

(a) 広報チーム

メンバー：こちら、北1の岡崎。本部、応答願います。どうぞ。

本部：こちら、本部。北1の岡崎さん、現在位置を連絡願います。どうぞ。

メンバー：こちら、北1の岡崎。現在位置、B-10（ブラボー ワン ゼロ）。どうぞ。

本部：こちら、本部。北1の岡崎さん、現在位置、B-10（ブラボー ワン ゼロ）。了解。

(b) 北公園支部

メンバー：こちら、北公園支部の平塚。本部、応答願います。どうぞ。

本部：こちら、本部。北公園支部の平塚さん、なんでしょうか。

メンバー：こちら、北公園支部の平塚。避難所への避難はいつごろになるでしょうか、わかったら連絡ください、どうぞ。

本部：こちら、本部。北公園支部の平塚さん、了解。

